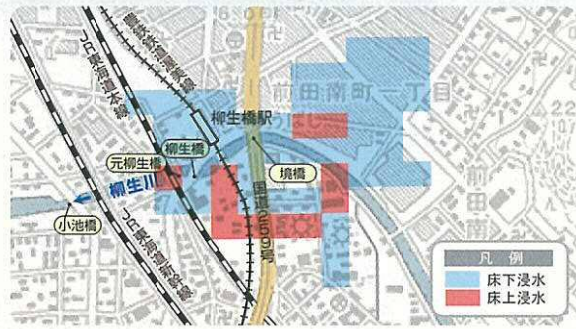


地下河川整備の効果

地下河川を先行して整備することにより、H20.8末豪雨に対しては、柳生川からの洪水の越水が起こらなくなります。

現況

H20.8末豪雨 実績降雨



W=1/5 計画降雨



地下河川完成後



事業効果



※越水氾濫+内水氾濫を対象

平成20年8月末豪雨の越水状況



地下河川の整備

H20.8末豪雨に対して越水による浸水被害は概ね解消します。

お問い合わせ先



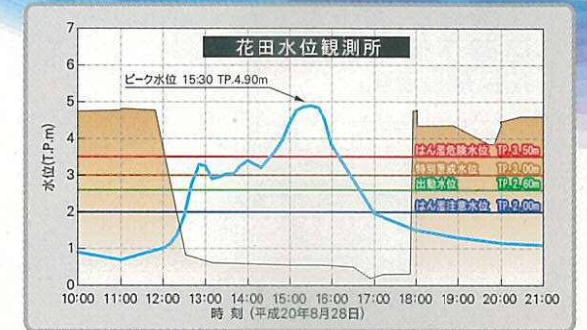
東三河建設事務所 河川港湾整備課
TEL (0532)52-1386

柳生川地下河川の整備

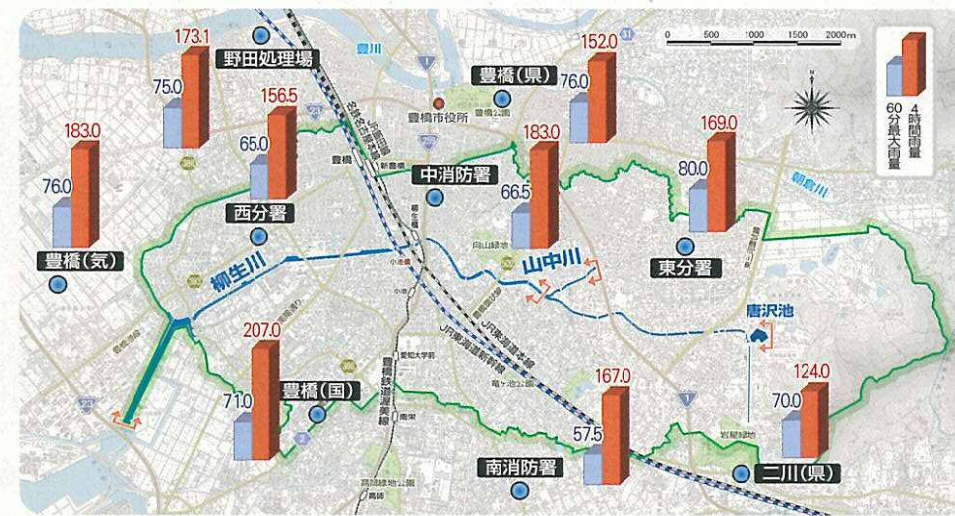
平成20年8月末豪雨の浸水状況

「平成20年8月末豪雨」

8月28日から30日にかけての大雨は、日本列島を縦断する形で停滞していた前線の影響により、南からの湿った空気が愛知県の全域に流れ込み、次々と至るところで雷雲を発生させ、岡崎などでは、時間雨量100mmを超える記録的な豪雨となり、豊橋市でも、28日の午後より大雨となり、午後4時までに**150mmを超える豪雨**となりました。



▲花田水位観測所(柳生川)における水位変動



▲60分最大雨量/4時間雨量

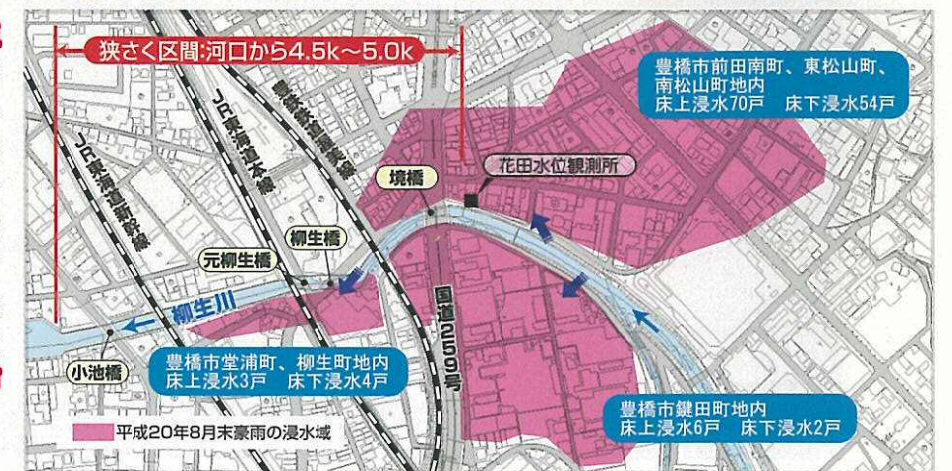
60分最大雨量：任意の60分間の最大雨量
4時間雨量：8/28 12:00~16:00の雨量



▲平成20年8月出水時の降雨ハイトグラフ

平成20年8月28日豪雨の浸水状況【狭さく区間付近】

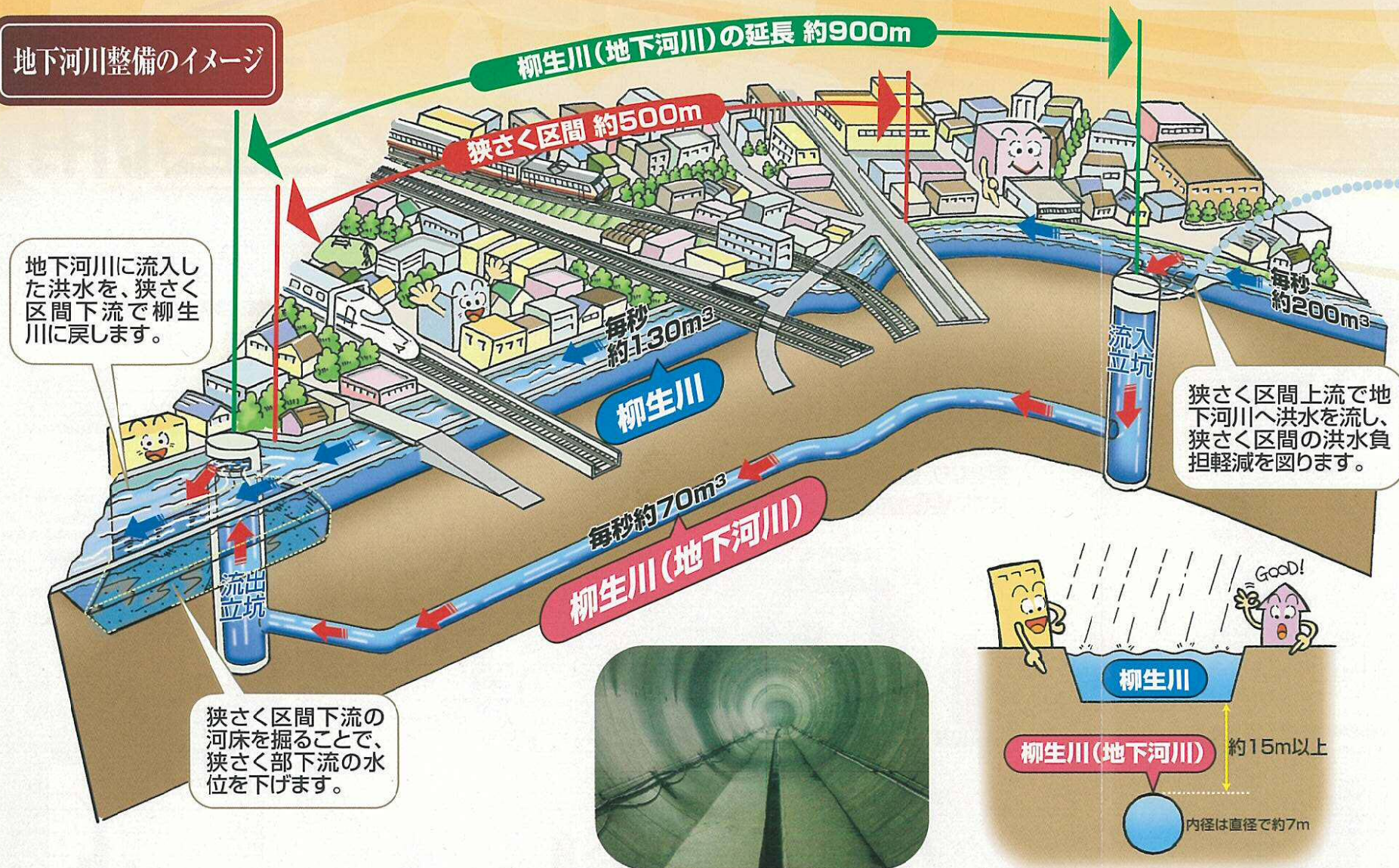
小池橋下流～境橋間は、柳生川の狭さく区間であり、洪水を流す能力が前後と比較して極端に小さいため、平成20年8月28日の豪雨では、河川水位が上昇し、降った雨が下水管を通じて柳生川に排水できなくなり、内水被害が発生するとともに、その後、境橋上流で洪水が柳生川からあふれ、境橋付近で**床上浸水79戸、床下浸水60戸**の浸水被害が発生しました。



地下河川の整備

柳生川の小池橋下流から境橋 (R259) までの約500m区間は狭く区間で、河川周辺は駅を始め住宅が密集しており、この区間にはJR東海道本線始め鉄道3橋と道路橋4橋が架かり、川幅を広げることが困難な状態です。経済性や早期実現の可能性など検討した結果、地下河川を整備することにより、河川改修と同じ効果が発揮され、1時間あたり50mm程度の降雨に対する洪水を流すことが可能となります。

地下河川整備のイメージ

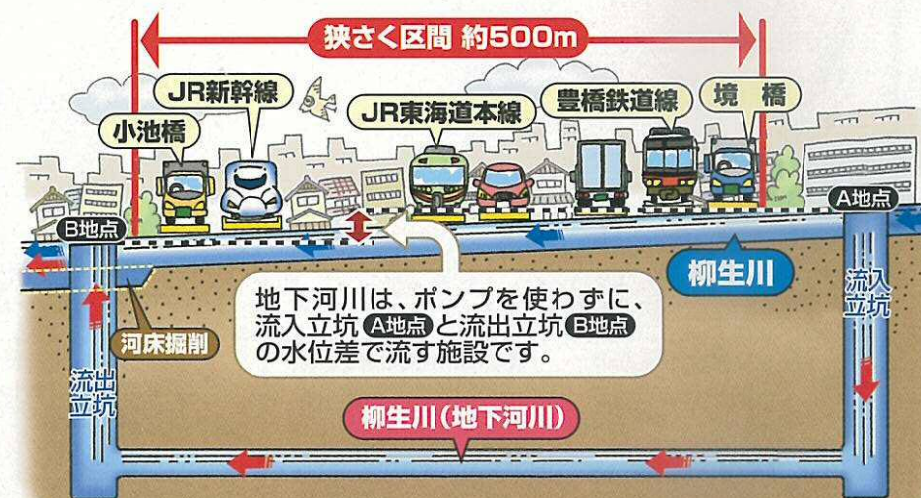


■注)絵はイメージであり、今後 変更される場合があります。

地下河川のイメージ写真



地下河川のイメージ断面



狭く部付近の洪水流下概要図



1時間あたり50mm程度の大雨が降った場合、境橋上流で洪水が越水する可能性があります。洪水の越水を抑制し、被害の軽減を図るために、

地下河川を整備します。